

令和6年度 外部関係者学校評価について

令和7年5月16日に開催した外部関係者学校評価会において、本校の学校自己評価について、外部関係者6名からいただいた意見等については、以下のとおり。

1 学校運営について

- ・ 令和6年度に新たに策定した3つのポリシー（アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー）を踏まえて、これらを達成するために学校として取り組んでいること、学校の特色や強みについても説明するようにしてもらった方がよい。

2 教育活動について

- ・ 学生が「看護の魅力を感じる」ことができるようにするための方策であるが、やはり「臨地実習の場」で看護の魅力は発揮されると考えられる。臨地実習の中で、患者さんのちょっとした表情の変化などから、学生に気づかせ、考えさせること、自分たちのかかわりについての価値を見出させること、それらが看護の魅力となるのではないか。
- ・ 個々の学生の自身の達成状況を確認する方法として、全体評価だけでなく、臨地実習ごとにGPA評価を活用してはどうか。
- ・ 病院機構から、医師や看護師、理学療法士等多くの医療職者が、非常勤講師として、専門領域に係る昨今の医療や看護の最新の状況について授業を行っている。
しかしながら、これらの非常勤講師の授業内容は時に高度に実務的であり、授業を受ける側の学生の理解が追いつかない場合も考えられる。学校の授業内容について、事前打ち合わせ等をしっかり行うとともに、学生の反応や評価をフィードバックすることも検討してみてはどうか。

3 その他

- ・ 出生数の減少に伴う18歳人口の減少や広島県外への流出等により、受験者数も減少傾向にあるが、県内外への学生の動向などについて、具体的にデータを活用し、検討されるとよい。
- ・ 今回は、副校長、第一・第二看護学科係長から取組内容の説明があったが、学校全体の取組として、各担当から取組内容等について説明するようにしてもよいのではないか。